



山形に定着した
さくらんぼ大会
垂涎の賞品を目の前に
標高1000mの高原で
二日間満足の4レース
工夫された競技性
幼・老も安心なトレイン



全レースのフィニッシュエリアをトラック脇のオープンスペースにセット。

地方大会の開催に苦悩の
大会責任者が重点報告
さくらんぼ大会とは

山形県協会は、財政難から日本オリエンテーリング協会には発足から少し遅れて加盟しました。平成11年度東日本大会を主管のためとりあえず加盟した貧困協会なので、財政はもちろん会員数も少なく基盤が磐石ではありません。

数年前、年会費の納入が出来なく、窮余の策として会員に留まる希望を付して3年間の会員活動休会届けを提出しました。JOAは定款改定に着手した様子ですが会費問題は今年度も実質的な改定額が示されないまま、全会員一律の納入願いが配布されました。細々と活動している貧困協会は希望が持てない財政状況や会員の減少は現在も改善されていません。

旧委員会時代、地方大会の運営で活動した当時の青成社会員が、バブル期以後自治体等のニーズ減少とオリエンテーリング行事の廃止に伴いモチベーションを失い、協会維持の圧力を回避し、櫛の歯が抜けるごとくことごとく去っていきました。

「さくらんぼ大会」はそんな困窮協会を存続させるため、ごく一部の会員が家族やそれらの友人知人の助けを借りて平成12年(2000年)以降も赤字覚悟で営々と大会を開き、東根市(生産量日本一佐藤錦発祥の地)で開催した大会に山形名産「さくらんぼ」のネーミングが付けられたときから始めて

いる大会です。



写真は1回目から使い続けている横断幕
今年も蔵王坊平で展張され日の目を見た

危なかった今年の開催

当初、さくらんぼはネーミングだけで開催時期のずれもあり賞品としては提供されませんでした。平成15年6月14-15日、県民の森を会場とした二日間大会に、さくらんぼ争奪戦として入賞者全員に大盤振る舞いしたときから名実ともに「さくらんぼ大会」となりました。

名称だけの大会から数えて今年(2007年)は第9回でありましたが、実は開催を断念の危機に直面しました。JOAが主催する全日本平成18年度大会(北海道)が平成19年6月開催に決定したことが最大の危機要因でした。

開催の可否は、全日本の開催時期が6月に決定され、時期調整について主管(北海道)協会の責任者から開催週の打診があったときから始まりました。判断材料として、6月第1週には長年続いてきた東大OLK大会があり、従来通

りさくらんぼ大会を中旬開催し、全日本大会も6月開催となるとビッグ大会が連続し、参加者減のしわ寄せはさくらんぼ大会に来ることは明白でしょう。

開催断念も選択肢であったが、この大会を毎年楽しみにしている根強いファンやファミリーの顔が脳裏をよぎり開催することに決めました。そこで、独りよがりですが参加者には週末の遠征連続を回避させる案として、中旬の週(6/17)を北海道に譲渡し、さくらんぼ大会は6月最終週とすることに賞品の佐藤錦生産果樹園と折衝、所要量を確保契約しました。

トレインは昨年西蔵王公園(標高500m)でも暑さ対策が必要だったことを反省し、この時期でも涼しい蔵王坊平高原に決定して町井稔氏の調査・企画する事となったのでした。

これまでスプリントに日本最初のタッチフリーコントロールを採用したり、1日に2レース採用したりして様々なレースカテゴリを提供してきました。

お陰で参加人数も昨年まで確実に増加して収支バランスの改善期待も高まっていました。しかし、全日本大会北海道の影響は避けられず、期待した協会収支の改善には遠いものとなりました。

今年度は特異な例かもしれませんが、JOAには地方協会の困窮を真剣に理

解し、開催日調整等の新機能を発揮してくれるように望むものです。



今年のさくらんぼ（特に佐藤錦）は平年作を大きく下回る不作で高価となり賞品予定額を超過した。
本大会で贈呈の賞品は、皇室献上品と同一生産品で美味しいことは地元でも評判の元木太一果樹園生産品。

開催継続するには

高価なさくらんぼを賞品としている異例の大会ですが、継続するには収支の健全運営にあることは論を待ちません。

近年は補助金が皆無で現金収入は参加費だけ。基金も無く、年会計の収支も赤字繰越で毎年毎年、参加者増の淡い期待だけで運営しています。

巷の情報によると、首都圏の人口密集地を抱える某協会は地方の集客影響には目もくれず、豊富な財政と豊富な人材を駆使して年間イベントを次々と開催、発表される参加者数を聞くだけで、遠隔の協会では垂涎が出ます。と、同時に地方大会開催に努力している意義に疑問を持ち、開催意欲が萎え凋み、責任者の立場として開催の可否に揺れていることも事実です。

良くも悪くも、これまでの大会すべてに責任者として君臨してきましたが、限りある年齢のことを思うと後継者に財務を健全なものにして引き継がなければなるまいと思案しています。

さて、さくらんぼ大会も来年は区切りの第10回を迎えることとなります。

開催期日は6月28日(土)-29日(日)に予定し、場所は生産量日本で佐藤錦発祥の地である東根市の会場候補地をスタッフと関係機関に打診しています。これが実現すると名実ともに「さくらんぼ大会」となることは間違いのないでしょう。



来年もさくらんぼ爺々の笑顔が見れるか

大会の特色

初日のスタートは午後にする

遠方からの参加者に配慮して1日目のトップスタート時刻を12:30としました。又、幼児連れ夫婦に便宜を講じスタート時刻を離隔して子供の保護の心配を解消しました。

日照時間を有効に使う

6月の日は永い、レース数を増やして初日はスプリント2本、2日目もミドルとスプリント2本、競技時間の制限内にぎりぎり押し込みました。二日間に4レース、ファイナルは日本初の完全ダウンヒルスプリントでチェイシングスタート。会場からスタート後の選手を遠望できました。

気温上昇時対策

屋外の待機所は日陰を利用できる林間スペース確保、売店付の屋内更衣室ありシャワー付更衣室(100円)も用意しました。

キッズ0(STRINGコース)開設

本大会おなじみで1周ごとにさくらんぼが食べられるので子供たちには好評だった。

スプリントレース

スプリント1はJOA公認レース。

トレインは毎年年末のスキー合宿で使用しているエリアなのでSKI-0選手に有利が懸念されたが、10年来のマップをJSSOM2007に準拠し1:4000に印刷して試走の結果、懸念の必要ないことが証明されました。

森の木々が落葉したら見通しが利くスーパーAだが、下草が生え木々の葉が成長し、走行可能度に適度の障害が発生し競技の公平性を増加させてくれたのです。それに加えてプランナーの後藤陽一君(東北大)がパタフライループを試走に試走を重ね、荻田育徳コントロールのチェックを受け自信を持って提供したコースがN/Tコーチの羽鳥氏や高橋善徳氏、渡辺円香氏に満足させたのでしよう。スキーOでおなじみの酒井佳子や堀江守弘の成績も他のスキーO選手も彼らなりの実力相当の順位でしょう。

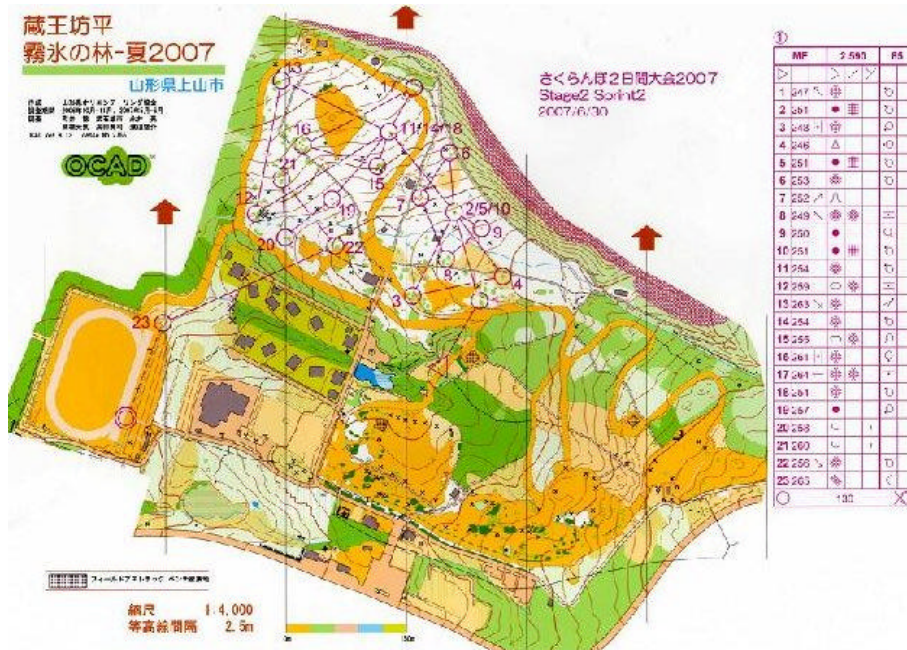
コースは狭隘なトレインなのでスプリント用に作図したマップいっぱい広がっていたがスプリント2でスタートからの方向を変え、パタフライループに緊張感を挿入し、スプリント1と異なる新鮮性を感じさせ、心配されたクレームを発生することなくレースが展開されました。

一時、計算センターが連続してフィニッシュする処理にパソコンがダウン。数十人のカード処理上の待機が生じたのが次回への反省点です。

ミドル(7月1日)

ミドルはJOA公認B大会でマップ記号をJSOM2007に準拠し、トレインの範囲をスプリントの西側と南側を加え、縮尺を1:7,500にして作成しました。

しかし、コースのプランに当たって西側に未調査と進入困難なDやぶがあり、グラウンド第2コーナーのビジュアルコントロール以降の1/3程度の森林部分でミドル的ウイニングタイムをクリ



アするコースを構成しました。

ミドルレースは参加者の大半を占めた学生（東北大、筑波大、岩手大、岩手県立大他）が対抗戦を併設したので応援にも熱が入り、フィニッシュレーンを見下ろす計セン付近は応援の怒声と歓声で盛り上がりました。

一般クラスもスプリントの2レースとミドルの所要タイムのトータルがファイナルのチェイシングスタートに直結するのでフィニッシュパンチするまでスピードを落とせない過酷なレースとなったようです。

ダウンヒル (ファイナル)

WE/ME と MA クラスの 104 名は第 2 スタート地区としてマイクロバスでピストン輸送しました。行楽の車で混雑しているエコラインを登り 15 分程度で下車地点に到着します。

蔵王連山を形成するその地点に車から降りた皆から歓声があがりました。それほど見晴らしが素晴らしいのです。梅雨時には珍しく、其の時の天候も遠来の客を歓迎して晴れました。

北は高さ東北第 2 位の鳥海山から月山、縦走で好評の朝日連峰 夏でも雪渓でグリセードが出来る石転び沢を擁する厳しく岳人憧れの飯豊連峰、その南には縦走路を椴松で覆われた吾妻連峰が連なっています。皆、スタート時刻を忘れたように、しばしの憩いを楽しんでいました。

その模様は会場から眺めることができました。肉眼でも選手の動きが右に左に走るのがわかり、中央の森に消えるまで追いかけることができます。双眼鏡を固定してマイクを置き、あるいは

はテレビカメラをセットすると、スピード感あるライブが演出できそうです。

第 3 スタート地区はライザスキー場第 2 リフト乗り場付近で、ここでも見晴らしは十分。

レースは、完全なダウンヒルオンリーなので其々のコースともオーバーランに気をつけるとそんなに逆転することが無いはずですが、レースは時の運もありなかなか順調には行かなかったクラスも見受けられ、フィニッシュまで予想通り白熱したレースを展開してくれました。

大きな収穫、M20A

驚いた！M20A クラスで 14 歳の中学 2 年生が第 1 位になったのです。前日のスプリントも順調に上位に張り付いていましたが、まさかミドルも上位に食い込むとは予想外でした。

M20A クラスの出走者は 39 名。2 名の中学生以外全員が大学生。第 1 位中学生の名は東野基生。彼は 2005 年から渡辺幸に誘われて一緒に大会出場していました。今回も二人一緒 M20A クラスに挑戦していました。これまでは渡辺幸より成績がよいことはほとんど無かったのですが、今回、幸が大会直前に右腕の骨折というアクシデントで実力を発揮できない中でこのクラス堂々の優勝を勝ち取ったのです。彼にとっては大きな自信になりました。優勝インタビューで今後のことを聞かれ「もちろん続けます」と答えていました。

6 月改定された競技規則で 20 歳までのエントリークラスを 1 クラス上位に

エントリーできるとしてはいますが、今回の例を見ても能力ある若年層の上達をわざわざ妨げているように思えます。

すでに 18 年度の M20E 資格で 13 歳の者が 2 名も獲得している前例もあり、オリンピックのフィギュアでも指摘されたことがオリエンテーリング規則改定で何の教訓にもなっていないのが気に掛かります。早急な改定検討を望むところです。

総合成績クラス 1 位

総合成績クラス 1 位
(タイムは 4 レースの合計)

ME	高橋善徳	みちの会	1 :06 :18
WE	渡辺円香	ES 関東 C	1 :15 :05
MA	堀江守弘	SKI-O	1 :01 :19
WA	寺嶋貴美江	ES 関東 C	1 :11 :40
MAS	大塚弘樹	入間市 OLC	1 :00 :38
WAS	小林正子	ES 関東 C	1 :02 :20
M45A	小林岳人	ES 関東 C	0 :59 :56
W45A	斎藤まどか	川越 OLC	1 :11 :09
M60A	尾上俊雄	OLP 兵庫	1 :01 :19
M70A	高橋厚	多摩 OL	1 :02 :29
M20A	東野基生	米沢 2 中	1 :23 :55
W20A	常住沙織	筑波大 OL	1 :29 :59
M15	遠藤豪志	東京 OL ク	1 :14 :09
M12	遠藤崇志	東京 OL ク	2 :10 :12
W12	小林璃衣紗	ES 関東 C	1 :37 :09
W10	吉田桃子		1 :22 :30
MB	櫻庭健一		1 :03 :15
WB	皆川美紀子	みちの会	0 :46 :35
MN	渡辺来生	九里幼稚園	1 :46 :27

ポールウォーキング

この大会参加を利用してスキー O 研究会の有志で合宿も計画されてきました。この合宿には、今年の年頭に肺がんで緊急入院し、右肺を摘出してリハビリ中の内山孝博氏が来ることになりました。福岡に見舞いに行った際の話に、気分転換に山形に来ることを強く勧めていたのが、会場で彼の顔を見たとき言葉にならないほどうれしかった。

スキー O のオフトレに欠かせないポールウォーキングが巷で意外に普及していると聞きます。急速、多忙な国際インストラクター高橋直博氏にその指導を要請し、スキー O 以外の方にもその講習を受けてもらったことを付け加えておきます。

(武石雄市)



M20A に出場し総合 1 位になった東野基生 (右)、骨折している渡辺幸 (左)